

コンピュータ用語における外来語の考察

——外来語とよりよく共生していくためには——

佐 藤 衣 央

第1章 はじめに

カタカナ語やアルファベット語は、多くの人が分かりにくいと述べている。このような現状を受け、文化庁（2006）は『新ことばシリーズ 外来語と現代社会』の中で、外来語の流入の勢いが激しい現代社会においての外来語の問題点や、私たちの取るべき対応について論じている。また、国立国語研究所では2003年4月から2006年3月まで計4回の「外来語言い換え提案」を発表し、分かりにくい外来語を和語や漢語など馴染みのある言葉へ置き換える提案を行った。

しかし、このような国の取り組みもありながら、現在、外来語が減ってきたか考えると疑問が残る。雑誌や広告では未だに多くの外来語を目にするし、『常識として知っておきたいカタカナ語：文化庁世論調査120語を徹底解説』（2004年）といった書籍も登場し“外来語＝常識”といった考え方も存在する。

国立国語研究所の外来語に関する意識調査（2004）によると、被調査者の91.7%が外来語には「分かりにくい分野がある」と答え、分かりにくい分野として「コンピュータ関連」（59.3%）が「政治・経済」（59.1%）と並んで一番になっている。（図1参照）

コンピュータ分野で外来語が多く見られる背景について、史・加藤（1999）は、

現代のコンピュータおよびそのネットワークは基本的に英語の環境のもとで発展してきており、コンピュータやネットワークによって言語接触の機会が増えるにつれて、外来語も大量に流入している

と指摘した。また、岡本（2004）は、

情報化時代では、国際共通語である英語を用いて迅速に情報を獲得し処理できるかが、成功を左右することになる

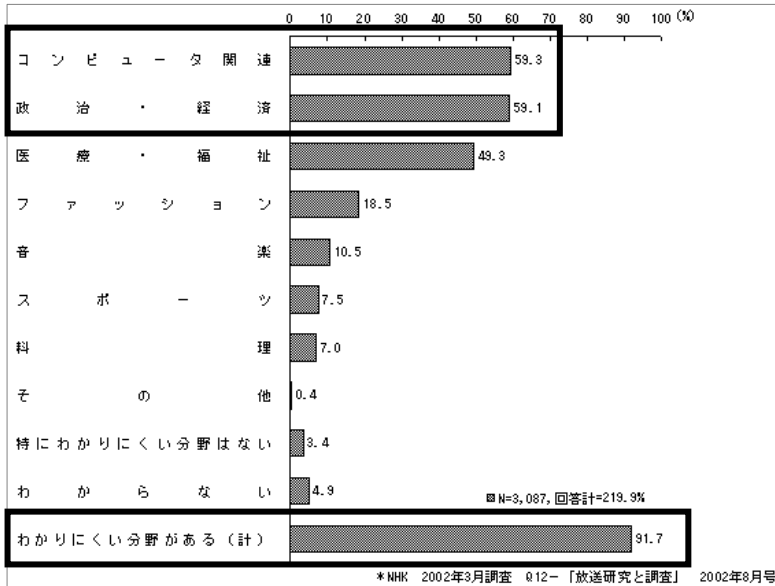
とし、英語の苦手な日本人にとって、外来語（ここではカタカナ語を指す）が手軽に外国の情報・知識を得る道具として欠かせないと述べている。こうした背景を考慮すると、コンピュータ分野において、外来語の流入は、今後もますます避けられないと予想できる。

このような現状の中、熊抱（2005）は、

カタカナ語の氾濫の歯止めの為の対策よりは、いかに日本語と“共生”していくかが問題になる

図1 どの分野の外来語が分かりにくい

国立国語研究所 (2004) より引用



という見解を示しており、相澤 (2006 : P.36) は

外来語は、使い方次第で毒にも薬にもなります。毒にならないようにうまく付き合いか
を考えて、できれば薬になるような工夫をすることが賢明な道ではないでしょうか。

と述べている。

そこで、本研究もこの流れにのり、外来語といかに共生していくか、という姿勢で最も外
来語が多いと考えられるコンピュータ分野の外来語を中心に、論じていく。

第2章 方法

(1) 調査対象者

東京都内の大学生の男女177名 (男性67名、女性110名)。調査対象者の所属学科は文系123
名 (男性38名、女性85名)、理系54名 (男性29名、女性25名)。

(2) 調査場所 東京都

(3) 調査時期 2011年7月～12月

(4) 調査方法 紙面のアンケート 回収率100%

(5) 調査項目は以下のようである。

①対象者の性別、年齢、専攻分野

- ②パソコンの平均使用頻度と平均使用時間
- ③パソコンの使用目的
- ④コンピュータで使用される外来語の理解度

調査語句30語は、パソコン検定試験4級（以後、P検4級と略す）のテキスト・問題集に載っている上位頻出200語から選んだ。P検4級は、合格した場合「パソコンを個人的且つ日常で利用するのに必要な知識・スキルを有する」とされている。

P検4級の出題カテゴリに倣って、コンピュータの用語を、「基礎」「OS」「インターネット」「セキュリティ／モラル」「文書（word）」「表計算（excel）」の6分野に分け、それぞれの分野から5単語ずつ出題するようにした。理解度は「よく知っている」「ある程度理解している」「聞いたことはあるが、分からない」「分からない」の4段階とした。

- ⑤コンピュータを使う上で言葉が分からずに困った経験の有無、言葉の種類、その時の対応

- ⑥コンピュータの外来語への意識

現在のコンピュータの外来語の多さをどう思うか、今後コンピュータの外来語は増加するか、増加する事をどう思うか、質問した。

また、今回は“外来語”をカタカナ、アルファベットを含んだ語とし、カタカナやアルファベット単体の語に加え、カタカナやアルファベットを一部に含んだ混種語も調査対象とした（例：印刷プレビュー、IPアドレスなど）。その理由は、コンピュータ用語では、アルファベット語の多さが非常に目立ち、同様にカタカナやアルファベットを含んだ混種語も非常に多いためである。

図2 コンピュータの使用頻度

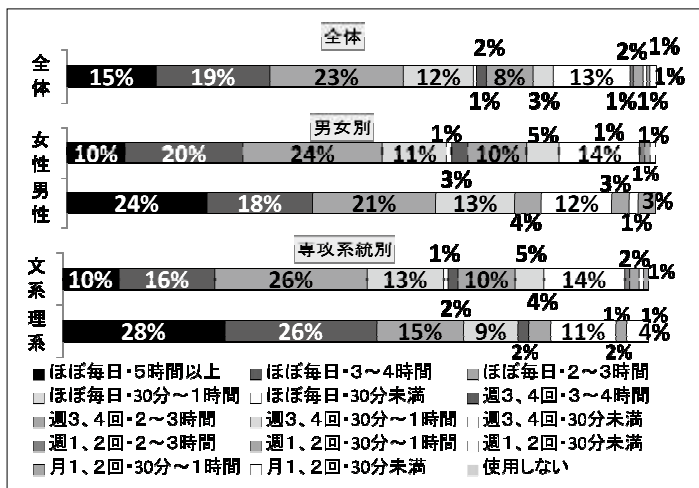


表1 コンピュータの使用時間（分／週）

一週間の 使用時間	女性	男性	文系	理系	全体
平均（分）	896.5	1071.9	858.2	1201.5	962.9

※使用頻度から、1週間の使用時間を算出。

「ほぼ毎日」＝7日、「週3、4回」＝3.5日、「週1、2回」＝1.5日、「月1、2回」＝0.5日、
「5時間以上」＝300分、「3～4時間」＝210分、「2～3時間」＝150分、「30分～1時間」
＝45分、「30分未満」＝30分、に当てはめて計算した。

（例）「ほぼ毎日・5時間以上」は、7日×300分＝「2100分以上／週」。

図3-1 コンピュータで利用しているものは何ですか？（複数回答）

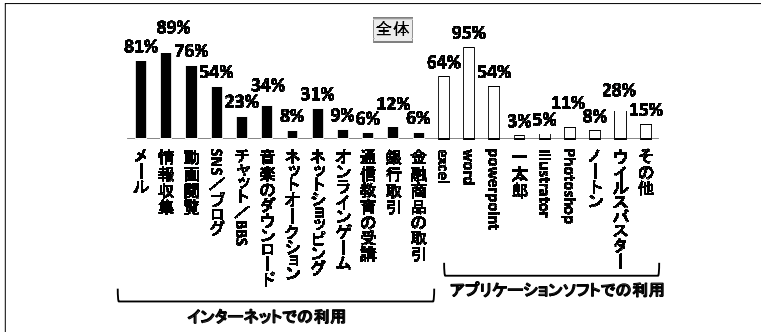
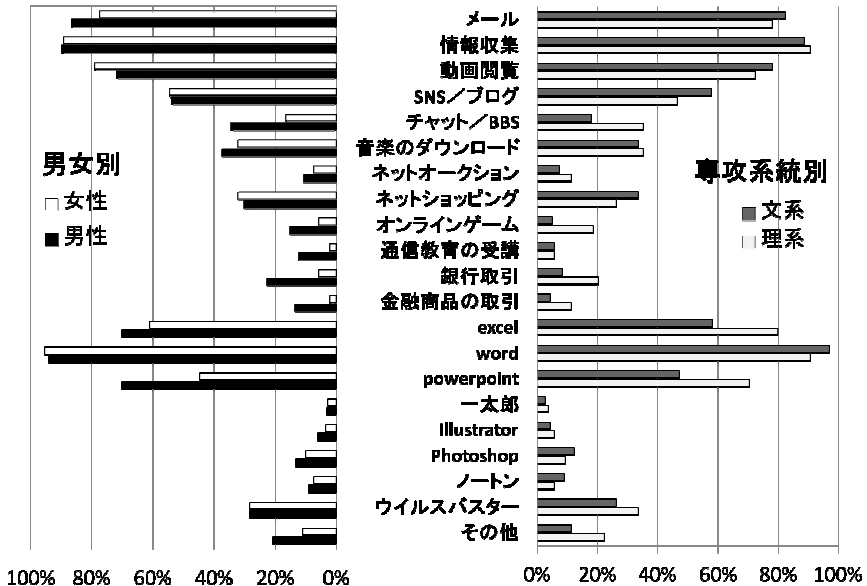


図3-2 コンピュータで利用しているものは何ですか？



第3章 結果

3. 1 コンピュータ活用の実態

全体の6割以上が毎日パソコンを使用していると回答。1週間の使用時間は平均965分で、1日約140分使用している事が分かった。また使用時間の長さは、男性(1080分)が女性(894分)を上回り、専攻系統別では理系学生(1194分)が文系学生(863分)を上回った。(図2 コンピュータの使用頻度・表1 コンピュータ使用時間参照)

全体および男女別・専攻系統別のコンピュータの使用用途を図3-1、3-2に示す。インターネットでの利用では「情報収集」(158)、「メール」(143)、「動画閲覧」(135)」が高く、「SNS／ブログ」(96)、「音楽のダウンロード」(60)、「ネットショッピング」(55)、「チャット／BBS」(41)、「銀行取引」(21)、「オンラインゲーム」(16)、「ネットオークション」(15)、「金融商品の取引」(11)、「通信教育の受講」(10)と続いた。ソフトの利用では「word」(168)、「excel」(114)、「powerpoint」(96)が高く、「ウイルスバスター」(50)、「photoshop」(20)、「ノートン」(14)、「illustrator」(8)、「一太郎」(5)と続いた。

インターネットの利用とソフトの利用では、インターネットの利用の方が多く回答された。ソフトでは、word、excel、powerpointが多く利用されていることが分かった。

3. 3 コンピュータ活用での言葉のトラブル

コンピュータを利用する上で言葉が分からずに困った経験の有無では、全体の94%が「はい」と回答し、ほとんど全ての学生がパソコンを使用する上で、言葉のトラブルに遭っている事が分かった。

「はい」と回答した人に、どのような言葉の種類が多いか聞いた結果を(図4)に示す。「カタカナ」(110)、「アルファベット」(101)、「アルファベット+その他の言葉(例：IP アドレス)」(88)、「カタカナ+その他の言葉」(66)、の順で多く回答が寄せられ、「漢字」(9)、「ひらがな」(2)と回答した人は少数に留まった。カタカナやアルファベットなどの所謂“外来語”がコンピュータを使用する上で大きな障害になっている事が明確になった。また、「カタカナ+その他の言葉」や「アルファベット+その他の言葉」の混種語も半数を超え、トラブルの原因になっている事が分かった。

図5では、言葉の問題に遭遇した時の対処法を示す。全体では「調べる」(13%)、「ときどき調べる」(28%)、「あまり調べない」(23%)、「調べない」(11%)の順で多く、調べる傾向が見られた。

男女では、男性の方が女性よりも調べる傾向が強い事が分かった。専攻系統別では、理系学生の方が文系学生よりも調べる傾向であった。

しかし、94%が言葉の問題に遭遇しているにも関わらず、「調べない」「あまり調べない」が全体で34%いる事から、分からない言葉に遭っても何も対処せずにいる人が3割近い事が分かった。

図4 それらはどんな言葉が多いですか？（複数回答）

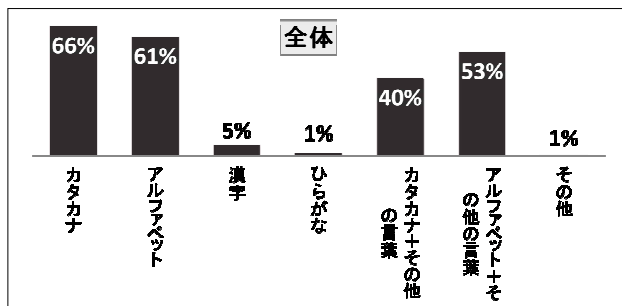
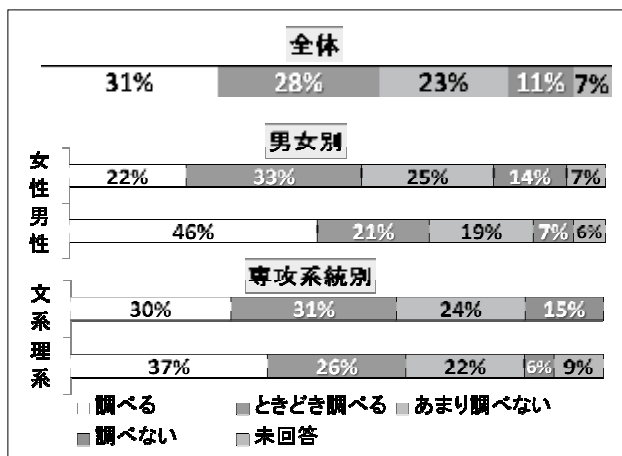


図5 その時、どういう対応をしましたか？



3. 4 コンピュータの外来語の認知度

外来語の認知度調査では、「よく知っている」、「ある程度理解している」、「聞いたことはあるが、わからない」、「わからない」の4段階を、それぞれ+2、+1、-1、-2に数値化して処理した。30語の認知度調査の結果を表2に示す。

全30語の平均値は0.54で、「ある程度理解している」(+1)までは届かなかった。P検4級の「パソコンを日常で利用する上で必要な知識」から出題した語だけに、この認知度はやや低いと考えられる。30語のうち認知度が高かった語は「フォルダ」(1.60)、「スクロール」(1.36)、「アプリケーション」(1.28)、「チェーンメール」(1.61)、「バックアップ」(1.14)、「フォント」(1.60)、「コピーアンドペースト」(1.46)で、認知度が低かった語は、「ディレクトリ型」(-0.85)、「デジタルデバインド」(-0.25)、「クイックアクセスツールバー」(-0.09)、「ア

表2 30語の認知度

出題用語	区分	女性	男性	文系	理系	全体
フォルダ	コンピュータ基礎	1.61	1.59	1.54	1.76	1.60
スクロール	コンピュータ基礎	1.39	1.31	1.30	1.48	1.36
ハードウェア	コンピュータ基礎	0.57	1.00	0.50	1.28	0.73
OS	コンピュータ基礎	0.00	1.26	0.20	1.12	0.47
マッキントッシュ	コンピュータ基礎	-0.06	0.69	0.54	0.44	0.22
コンピュータ基礎の平均値	コンピュータ基礎	0.70	1.17	0.82	1.22	0.88
アプリケーション	OS	1.15	1.50	1.15	1.58	1.28
日本語入力システム	OS	0.58	0.97	0.52	1.20	0.73
エクスプローラー	OS	0.36	1.04	0.51	1.06	0.62
コントロールパネル	OS	0.15	0.82	0.11	1.06	0.40
ドメイン	OS	0.17	0.76	0.17	0.92	0.40
OSの平均値	OS	0.48	1.02	0.49	1.16	0.69
サーバー	インターネット	0.76	1.35	0.82	1.35	0.98
AND 検索	インターネット	0.39	1.00	0.49	0.93	0.62
IP アドレス	インターネット	0.28	0.84	0.20	0.89	0.41
CC	インターネット	-0.13	0.48	-0.13	0.64	0.10
ディレクトリ型	インターネット	-1.21	-0.27	-1.25	0.06	-0.85
インターネットの平均値	インターネット	0.02	0.68	0.03	0.77	0.25
チェーンメール	セキュリティ／モラル	1.60	1.64	1.65	1.53	1.61
バックアップ	セキュリティ／モラル	1.00	1.36	1.04	1.35	1.14
ネチケット	セキュリティ／モラル	0.67	1.04	0.68	1.11	0.81
フィッシング	セキュリティ／モラル	-0.09	0.69	0.02	0.61	0.20
デジタルデバイド	セキュリティ／モラル	-0.56	0.25	-0.46	0.22	-0.25
セキュリティ／モラルの平均値	セキュリティ／モラル	0.52	1.00	0.59	0.96	0.70
フォント	文書	1.57	1.64	1.57	1.67	1.60
コピーアンドペースト	文書	1.32	1.40	1.44	1.52	1.46
ページレイアウト	文書	1.02	0.91	0.93	1.07	0.98
ヘッダー	文書	0.94	0.85	0.76	1.22	0.90
クイックアクセスツールバー	文書	-0.38	0.41	-0.29	0.40	-0.09
文書（word）の平均値	文書	0.89	1.04	0.88	1.18	0.97
ワークシート	表計算	0.26	0.78	0.21	1.04	0.46
シート	表計算	0.20	0.75	0.22	0.83	0.41
アクティブセル	表計算	-0.59	-0.22	-0.66	0.02	-0.45
MAX 関数	表計算	-0.74	-0.24	-0.79	0.00	-0.55
フィルハンドル	表計算	-1.31	-0.82	-1.32	-0.69	-1.12
表計算（excel）の平均値	表計算	-0.44	0.05	-0.47	0.24	-0.25
属性別の平均値		0.36	0.83	0.39	0.92	0.54

クティブセル」(−0.45)、「MAX 関数」(−0.55)、「フィルハンドル」(−1.12)だった。「表計算 (excel)」分野では出題した5語中3語にマイナスがつき、認知度が低い語の多さが目立った。

分野別では、「文書 (word)」(0.97)の語の認知度が最も高く、「コンピュータ基礎」(0.88)、「セキュリティ／モラル」(0.70)、「OS」(0.69)、「インターネット」(0.25)、「表計算」(−0.25)と続いた。「文書」「コンピュータ基礎」「セキュリティ／モラル」「OS」が全体の平均値を上回っていることから、「インターネット」「表計算」の用語の認知度の低さが全体に影響したと考えられる。

男女別では、男性(0.83)の方が女性(0.36)よりも語を理解している傾向にあった。また、女性はマイナスの数値になった語が9語あり、全体30語中、約1/3の語が理解できていなかった。

専攻系統別では、理系学生(0.92)の方が文系学生(0.39)よりも語の認知度が高かった。また、文系の学生のマイナスがついた語の数も9語あり、文系学生も全体の約1/3の語が分かっていなかった。更に、男女間よりも専攻系統間での認知度の差の方が、若干大きかった。

3. 5 コンピュータの外来語に対する意識

現在のコンピュータにおける外来語の意識調査の男女及び専攻系統別を図6に示す。「時代の流れとして、受け入れるしかない」(38%)の中立的な意見が多く、「もう少し減らしてほしい」(18%)の否定的な意見と「新たな概念を導入するのに必要だ」(17%)の肯定的な意見が拮抗した。

男女別では、男性は肯定的な傾向で、女性は消極的な傾向が見られた。専攻系統別では、文系、理系とも「時代の流れとして、受け入れるしかない」が一番多く占めた。

今後の外来語増減に対する予想では、95%が今後さらに外来語が増えていくと予想した。

図7では、今後の外来語増加に対する意識を示す。「あまり好ましいことではない」(29%)、「分からない」(24%)、「まあ好ましいことだ」(20%)、「好ましくない」(10%)、「その他」(6%)、「好ましい」(5%)の順に多く、やや否定的な傾向だった。また、「分からない」は男女、文理ともに全体の1/4を占めた。

男女間では、肯定的な男性に対し、否定的な女性という認識の違いが表れた。専攻系統別で見ると、文系学生が否定的なのに対し、理系学生は肯定的な傾向が見られた。

第4章 考察

4. 1 コンピュータの利用率と語の認知度の関連

インターネットでの利用では、ソフトの利用よりも多くの回答が寄せられ、性別や専攻系統問わず、多くの人が利用していた。(図3-1、3-2)しかし、「インターネット」分野の語の認知度は全体で二番目に低く、女性(0.02)と文系学生(0.03)では用語を理解していない人が半数近くいた。(表2)このことから、インターネットを利用する人は多いが、イ

図6 現在のコンピュータにおける外来語の意識調査

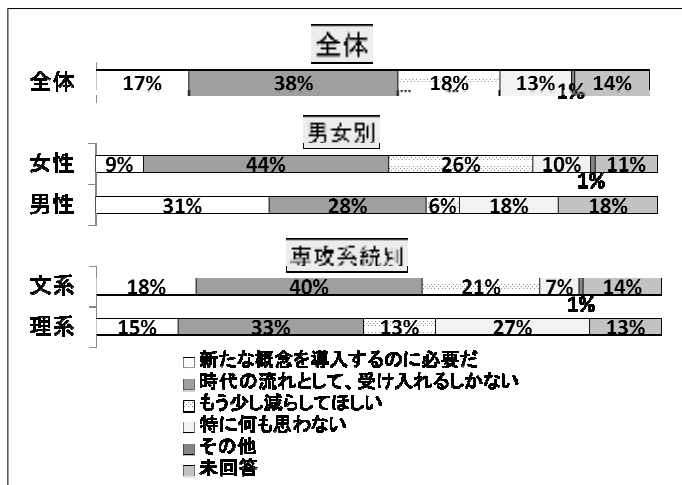
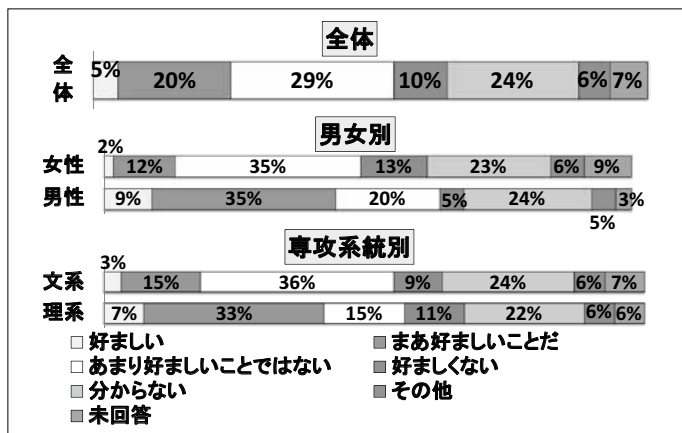


図7 今後のコンピュータの外来語増加に対する意識調査



インターネットに関する外来語をちゃんと理解している人は多くないと言える。このような理由として、インターネットは用語まで理解せずに利用できるためではないかと考えた。

4. 2 コンピュータの外来語の意識—現在と今後の比較—

図6の「現在のコンピュータにおける外来語の多さに対する意識」では、外来語の受け入れに中立的な回答が多く、肯定派と否定派が拮抗したが、図7の「今後のコンピュータの外

来語増加に対する意識」では、外来語増加に否定的な傾向が表れた。岡本（2004：P.61）は、人間の言語受容に関して「人間は言語に関しては常に保守的で、自分が習得したものの変革にはいつも消極的である。それにもかかわらず、人は目新しさを好む。」と述べており、現在は言葉の変革の時期なのかもしれないと考えた。

4. 3 コンピュータの外来語の意識—使用時間と認知度との関連から—

「コンピュータの外来語の意識」をコンピュータの使用時間とコンピュータの外来語の認知度でそれぞれクロス集計したものを表3-1-1、表3-1-2に示す。

コンピュータの使用時間（表3-1-1）との比較では、比較的長時間使用する1470分や1050分の集団内で、外来語の多さへの賛否が分かれており、使用時間が長いからと言って肯定的な意見が多いとは言えなかった。

しかし、コンピュータ上の外来語の認知度（表3-1-2）との比較では、回答の分布が、左上から右下に向かって広がる横長の楕円形になり、外来語の認知度が高い人ほど、現在のコンピュータの外来語の多さに対する意識が肯定的で、反対に、認知度が低いほど、現在のコンピュータの外来語の多さに否定的だと見る事ができた。

次に、「今後のコンピュータの外来語増加に対する意識」をコンピュータの使用時間、語の認知度と、それぞれ比較した。

コンピュータの使用時間とのクロス集計表（表3-2-1）では、回答の分布の仕方が、左上から右下に向かって広がる横長の楕円形になり、使用時間が長いほど肯定的な考えを持つ人が多いと考えた。

外来語の認知度との比較（表3-2-2）では、同様に回答の分布の仕方が左上を頭にした横長の楕円形になった。そのため、語の認知度の高い人ほど今後の外来語増加へ肯定的で、認知度が低い人ほど否定的と見ることができる。

以上から、コンピュータの外来語への意識は、コンピュータの使用時間の長さよりも、コンピュータの外来語の認知度の高さとの関連の方がより密接である事が分かった。

そこで、外来語への賛否は、外来語の認知度の高低によって変化してくるのではないかと考えた。つまり、コンピュータの外来語をよく理解している人ほど外来語の多さや増加に肯定的で、反対に、外来語をあまり理解していない人は、外来語の多さや増加に否定的になるのではないかという事だ。

4. 4 外来語の認知度の高さと、未知の外来語に遭った時の対応

表4では、コンピュータ上の外来語の認知度の高さとコンピュータを利用する上で言葉が分からずに困った時の対応（図5）を比較した。

その結果、外来語の認知度が高い人ほどコンピュータ上で未知の外来語に遭った時に調べ、逆に、認知度が低い人ほど調べない傾向が表れた。特に「調べる」と回答した人の平均認知度は、1.15で全体の認知度の平均（0.53）を大きく上回った。

表 3-1-1 現在のコンピュータの外来語の意識とコンピュータの使用時間の関連

外来語に対する意識 使用時間（分／週）	現在の外来語の多さ（複数選択可）		
	新たな概念を 導入するのに必要だ	時代の流れとして 受け入れるしかない	もう少し減らして ほしい
2100分	9	8	2
1470分	4	13	9
1050分	10	19	7
735分	1	2	—
525分	2	6	4
315分	3	8	4
225～210分	1	2	5
157.5分	1	9	3
105～22.5分	—	3	—

※1～5 □、6～10 ■、11～15 ■、16～20 ■ と色付けをした (人)

表 3-1-2 現在のコンピュータの外来語の意識と外来語の認知度の関連

外来語に対する意識 外来語の認知度	現在の外来語の多さ（複数選択可）		
	新たな概念を 導入するのに必要だ	時代の流れとして、 受け入れるしかない	もう少し減らして ほしい
2～1.5	8	7	1
1.5～1	8	11	6
1～0.5	6	17	5
0.5～0	4	20	9
0～-0.5	4	11	6
-0.5～-1	1	4	2
-1～-1.5	—	—	5

※1～5 □、6～10 ■、11～15 ■、16～20 ■ と色付けをした (人)

しかし、平均認知度を下回る 0～-0.5の人々でも「調べる」人が3.4%おり、分からない外来語を調べているにも関わらず、語の理解度が低い人もいた。このような理由として、きちんと意味を理解するまで調べきれていないためか、その場で意味を理解しただけで記憶に定着していないためと推測した。

表 3-2-1 今後のコンピュータの外来語の意識とコンピュータの使用時間の関連

外来語に対する意識 使用時間（分／週）	今後の外来語の増加			
	好ましい	まあ 好ましいことだ	あまり好ましい ことではない	好ましくない
2100分	1	12	5	1
1470分	—	7	13	3
1050分	2	8	11	5
735分	—	1	1	—
525分	2	1	7	—
315分	2	2	8	3
225分～157.5分	—	4	1	5
67.5～15分	1	1	3	—

※1～4 □、5～8 ■、9～12 ■、13～16 ■と色付けをした

(人)

表 3-2-2 今後のコンピュータの外来語の意識と外来語の認知度の関連

外来語に対する意識 外来語の認知度	今後の外来語の増加			
	好ましい	まあ 好ましいことだ	あまり好ましい ことではない	好ましくない
2～1.5	1	14	—	—
1.5～1	2	8	9	6
1～0.5	2	8	9	3
0.5～0	—	4	19	3
0～-0.5	1	1	12	3
-0.5～-1	2	—	2	1
-1～-1.5	—	1	1	1

※1～5 □、6～10 ■、11～15 ■、16～20 ■と色付けをした

(人)

表 4 コンピュータ上の外来語の認知度と未知の外来語に遭った時の対応の関連

外来語の認知度 未知の外来語への対応	2～1.5	1.5～1	1～0.5	0.5～0	0～ -0.5	-0.5～ -1	-1～ -1.5
	調べる	調べる	調べる	調べる	調べる	調べる	調べる
調べる	19	15	10	5	6	—	—
ときどき調べる	1	7	16	13	7	4	2
あまり調べない	1	6	7	17	7	1	1
調べない	—	—	1	4	6	5	4

※1～5 □、6～10 ■、11～15 ■、16～20 ■と色付けをした

(人)

第5章 まとめ

今回の調査で得られた知見や考察を3つにまとめたい。

① コンピュータの外来語の認知度について

本調査でP検4級のテキスト／問題集からランダムに30語を選定し、理解度を調査した結果、全体平均は0.54で、ある程度理解しているとは言えない結果であった。特に女性と文系学生の認知度は低く、全体の約1/3の語は理解していない事が判明した。また、大部分の人がインターネットを利用すると回答したものの、インターネット分野の語句の理解は低かった。

このことから、性別や専攻によってコンピュータの外来語の理解が偏っている事、また、語を理解しないままインターネットを利用している人の多さが浮き彫りになった。

② 男女における意識の違い

コンピュータ使用時間や語の認知度の高さ、分からない外来語に遭った時の対応、現在／今後の外来語への意識など、様々なところで男女の違いが顕著になった。コンピュータの分野は、男女によって好き・嫌いまた得意・不得意が分かれやすい分野であり、女性は特に苦手なのではないかと思う。しかし、今やコンピュータなくしては生活できない事を考えると、女性のコンピュータの外来語の認知度や外来語への意識も、男性と同じくらいに上げていく必要があるのではないか。

③ コンピュータの外来語との付き合い方

本調査を通して、語の認知度を上げていく事は、言葉のトラブルを防いだり、外来語への否定的な意識を改善する事につながるのではないかと考えた。

言葉とは本来、意味を共有する事で初めて成り立つものである。外来語だけが先行し、意味の理解の共有が追いついていない状況は、問題であろう。“言葉の意味を理解し共有していく”取り組みを積極的に行っていく事が大切だ。

参考文献

語句選定

旺文社パソコン検定普及本部編 (2011)『パソコン検定試験 対策問題集4級』旺文社

旺文社パソコン検定普及本部編 (2011)『パソコン検定試験 対策テキスト4級』旺文社

後藤寛樹・深澤のぞみ・濱田美和 (2002)「コンピュータ用語のデータベース作成と特徴の分析」『富山大学留学生センター紀要』

本論

史 有為 (加藤晴子訳) (1999)「現代における言語接触と外来語について」『応用言語学研究 (1)』明海大学大学院応用言語学研究科紀要編集委員会

興水 優 (2003)「分りにくいカタカナ語が多すぎる」『図書 654』岩波書店

- 岡本佐智子（2004）「外来語の受容と管理：言語政策の視点から」『北海道文教大学論集（5）』北海道文教大学
- 熊抱ゆかり（2004）「カタカナ語の氾濫とその使用に於ける深層心理」『福岡大学人文論叢 35（4）』福岡大学
- 熊抱ゆかり（2005）「氾濫するカタカナ語：‘歯止め’から‘共生’へ」『福岡大学人文論叢 37（2）』福岡大学
- 山崎裕介、久野雅樹、坂本真樹（2006）「日本語表現におけるカタカナ語の現状について」『日本語の研究 2（2）』日本語学会
- 杉島一郎（2006）「カタカナ語の使用における中高年者と大学生の比較」『仁愛大学研究紀要 4』仁愛大学
- 鈴木俊二（2007）「借用語の思想—受容の歴史と意識—」『国際短期大学紀要第22号』国際短期大学
- 相澤正夫（2007）「外来語の現状に対する意識」『国立国語研究所報告126』
- 小松英雄（2001）『日本語の歴史』笠間書院
- 藤田英時（2004）『常識として知っておきたいカタカナ語：文化庁世論調査120語を徹底解説』ナツメ社
- 独立行政法人 国立国語研究所（2005）『新「ことば」シリーズ19 外来語と現代社会』独立行政法人 国立国語研究所

参考ホームページ

- “ASCII.jp デジタル用語辞典”（参照2011-11-16）<http://yougo.ascii.jp/caltar/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>
- “「外来語」言い換え提案” 国立国語研究所「外来語」委員会（参照2011-11-14）
<http://www.ninjal.ac.jp/gairaigo/>
- “関係情報：情報通信関連：情報通信白書” 総務省（参照2011-12-16）
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/>